



問い合わせ 国際文化推進課 ☎38-2115

日本列島には数多くの遺跡があり、中でも特に、歴史上・学術上重要な遺跡が「国指定史跡」として指定されています。そして、芦屋市にも、国指定史跡が1つあるのをご存知でしょうか。三条町にある国指定史跡会下山遺跡は、2011年(平成23年)に国指定史跡となり、今年で指定15周年を迎えました。これを機会に、改めて会下山遺跡をご紹介します。



地元中学生の発見から始まった！ 会下山遺跡発見秘話

昭和29(1954)年、市立山手中学校では、学校の裏山にあたる会下山に植物実習園をつくるための道づくりが行われていました。この時、作業に参加していた山手中学校の生徒たちが弥生土器の破片を発見したのです。

この発見を受けて芦屋市教育委員会が実施した昭和30年代の発掘調査にも、山手中学校の生徒たちが参加しました。当時、著名な考古学者からは、稲作に適さない山の上にムラがあることへの疑念の声もあったそうですが、発掘調査によって、弥生時代中期中ごろから後期前半(今から1900～2200年前ごろ)の間、300年近く、山の上にムラがあったことが証明されました。また、会下山遺跡の発見をきっかけに、高地性集落が、全国各地で見つかるようになりました。このように、地元中学生が見つけた土器の破片から、高地性集落の調査研究が発展したのです。



- 1 会下山遺跡を発掘する調査員と中学生(昭和30年代)
- 2 発掘調査中の会下山遺跡(昭和30年代)



地元中学生と会下山遺跡をパトロール

市は、会下山遺跡の保護のため、随時、遺跡パトロールを実施しています。今回は特別に地元中学生3人に協力いただき、共同でパトロールを行いました。

- ※学芸員指導のもと実施しています。土器を含む埋蔵文化財は国民の共有財産です。個人での土器の採集はできません。
- ※土器片等を発見された場合は、速やかに国際文化推進課(☎38-2115)までご連絡ください。



- ▲採集した土器の破片は、三条文化財整理事務所に展示します。
- ◀パトロールの最中、遺跡内で土器の破片を発見。採集した場所を記録しました。